

生産者の想い

これからも愛される、理想のいちご農園を目指して

JAちちぶは、埼玉県西北部の山々にかこまれた自然豊かな環境のなかでいちご栽培に取り組む生産者（三代目園主）の声をご紹介します。



家業のイチゴ農家を継ぐ
近代化設備を活用し
選手権で最高賞を受賞

イチゴ栽培以外にも注力
集客力の強化や
イメージ向上を図る

さらなる研鑽と
施設老朽化への対策
分析による経営安定化へ

家業のイチゴ栽培を継承

市川様は、祖父の代から続くいちご農園の3代目園主。小学校時代からいちご園の手伝いをしていたが、当時は露地や手動設備でイチゴを栽培していた。苦労した思い出があったことから、生業として就農を考えた時も、作業時に足腰へかかる負担が心配だった。

しかしながら、いちご園では農業近代化資金を用いてシステムを構

築し、また地域でも早期に高設設備や機械設備も導入。作業負担を軽減できる環境が揃っていたことは、自身が踏み出すきっかけになった。

親から経営を継いだ後も、納得できるイチゴ栽培を追求。いちご園で育てる県オリジナルブランド「あまりん」が、（一社）日本野菜ソムリエ協会が主催する「第2回全国いちご選手権」で最高金賞を受賞した。



栽培以外にも目を向け、イメージ向上へ

受賞により全国の注目を集めるなか、園の栽培環境だけでなく、集客力の強化やイメージ向上にも意識を向け、PR支援事業を活用した。

①ロゴマークを使っていちご園をPR

イチゴをモチーフにした可愛いロゴマークを作成。園の看板と化粧箱に新しいデザインのロゴマークを用いて、他のいちご園との差別化を図る。印象に残りやすいロゴマークを使うことで、いちご園を訪れる方へのわかりやすさと、地元の方へいちご園の新しいイメージを伝える。

②ホームページのリニューアル

以前のホームページと比べ、写真を多く取り入れながら閲覧しやすさを考え、視覚的にイチゴの魅力のアピールすること意識した。また、いちご園への問合せが相次ぐ中、販売状況や売価、営業時間といった情報を毎日発信。買い手が情報を得られやすい流れをつくることで、対応の効率化につながった。「ネットショップへの流入経路も『いちご園のホームページから』が多く、いちご園の経営に大きく寄与している」と話す。

さらなる研鑽と施設老朽化対策

近年は甘いイチゴが好まれ、市川様も濃厚な甘さと食べた後鼻に抜ける香りを楽しめるイチゴの生産を目指し、研鑽を続けている。「イチゴの味は天候や日射量はもちろん、湿度の調整、二酸化炭素の供給など、色々な要素の組み合わせ



せで決まる。ハウスの立地や地域の環境に合わせ、一番良いやり方を考えたい」と意気込む。

しかしながら、祖父の代から使用している設備も多く、園の継続のため設備の更新が必要となる。

このため市川様は、当JAで取り組んでいる担い手コンサルティングを活用し、園の経営分析を実施。コスト管理等の課題や経済環境の変化に対応できる、園の強みを活用した安定的な経営の実現を目指している。

市川いちご園
代表

市川 和正 さま

事業内容

- 秩父で最も歴史あるいちご農園として、埼玉県オリジナルブランドの栽培にこだわる
- 完熟イチゴの味を追求し、毎朝一粒一粒厳選して収穫したイチゴをお届け

Field Notes

市川いちご園さんは、新しい技術や品種を積極的に取り入れています。高設栽培設備だけでなく、園が一躍有名となるきっかけになった「あまりん」も、登場し

てから地域でいち早く栽培を始めており、その経験の長さやグランプリの受賞につながったのだと思います。

そんな市川いちご園さんは、いちご園の更なる発展のためにJAバンクの近代化資金をご活用いただいた

時からのお付き合いがあります。

市川様が就農されてからも、設備の更新や雪害時のハウス再建などをお手伝いさせていただきましたが、ホームページの更新はいちご園の運営にプラスに働いた

面が多く、大きく貢献できたことを嬉しく思っております。

今後についても地域や農業情勢の変化に対応し、市川様とコミュニケーションをとりながら、理想のイチゴ栽培にお力添えできるよう、引き続き頑張っていきたいです。

JAちちぶ
金融部
融資債権課